



## 桑名市就学前施設再編実施計画に関するQ & A

Q なぜ少人数ではいけないのですか？

A 4歳児、5歳児の理想の規模としては、1クラス20人から30人で各年齢2クラス程度と考えております。少ない人数には、教師の目が行き届くというメリットもありますが、友だち同士で思いを出し合い、相談しながら遊びをつくっていったり、問題解決をしたりするなどの経験も少なくなり、友だち関係の固定化も生まれます。こうしたことから、子どもたちの社会性を育むためには、一定程度の集団規模は必要であると考えています。

Q 再編すると、小学校との連携は難しくなるのではないですか？

A 小学校との併設や小学生との分団登園などは、連携の象徴とも言えることからですが、私立園も含め、小学校への1日入学や小学生との交流行事などを実施するなど、引き続き小学校との連携の充実を図っていきたいと考えています。

Q 再編すると、地域との連携は難しくなるのではないですか？

A 地元自治会をはじめ、地域の皆様方には、各園とも温かいご支援・ご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。再編の実施により、新たなかたちで園がスタートすることとなりますが、園児の心豊かな育ちのためには、さまざまな人とのかわりが必要です。今後も、園の行事にご参加をいただくなど、地域との連携は積極的におこなっていきたいと考えています。

問い合わせ先 桑名市教育委員会事務局  
教育総務課学校・園再編推進室  
住所：桑名市中央町二丁目37番地（桑名市役所内）  
TEL：0594-24-1354 FAX：0594-24-1358  
メール：gakusaihm@city.kuwana.lg.jp



## 桑名市就学前施設再編実施計画（概要版）

～「子どもたちの育ち」のために、望ましい集団規模の確保を図ります。～

乳幼児期は、子どもたちが健やかに育ち、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な時期であり、自主性と社会性を育むための適切な環境の中で教育を行うことが極めて大切です。

しかしながら、核家族化や少子化の進行、保護者の就労状況の変化等、子どもと子育て家庭をとりまく社会環境が大きく様変わりする中、公立幼稚園では年々園児数が減少し、休園となる園が出るなど、子どもたちの社会性を育むための望ましい集団の確保が喫緊の課題となっており、早期の対応が求められています。

また、「子ども・子育て関連3法」が成立するなど、就学前教育をめぐる国の動きも大きな転換期を迎えています。

このような状況を踏まえつつ、「子どもたちの育ち」を中心に据えながら検討を重ね、平成25年6月に「桑名市就学前施設再編実施計画」を策定いたしました。

市民の皆様方には、実施計画の趣旨をご理解いただくとともに、引き続きご支援・ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

桑名市

平成25年6月



# 桑名市就学前施設再編実施計画について ～「子どもたちの育ち」のために、望ましい集団規模の確保を図ります～

## 本市のめざす就学前教育

子どもの健やかな育ちを中心におき、幼稚園・保育所・保育園の特性を生かしつつ、次の点を大切にしました就学前教育を行います。

**子どもの笑顔と元気があふれる園づくりをします。**

**遊びを通して学ぶことを大切に、人としての土台をつくりまします。**

**保護者と協働して子どもを育てます。**

**一人ひとりに寄り添い、確かな育ちを支えます。**

## 就学前施設再編のキャッチフレーズ

### 子どもの笑顔と保護者の安心

#### 《集団規模の確保により》

子どもたちは、**たくさんの思い・考え・刺激**を受け、**「豊かな感性」や「健やかな心身」、「考える力や表現する力」**などが育まれます。



**小学校以降の生活や学習の芽を育みます。**

## 計画の方向性

### 学びの連続性

公私立、幼稚園、保育園、保育所などを問わず、小学校との連携を図り、**学びの連続性を重視**した保育を進めます。

### 公立幼稚園の再編

子どもたちの社会性を育むための**望ましい集団規模を確保**するため、現在24園ある公立幼稚園を再編します。

### 認定こども園の設置

公私立、幼稚園、保育園、保育所がそれぞれの特性を生かしつつ、子どもの発達を踏まえた一貫性のある、**より質の高い教育・保育を提供**するため、公私にわたる認定こども園の設置を検討します。

### 預かり保育の実施

保護者のニーズや社会情勢等に対応し、**子育て支援を目的**に、公立幼稚園の預かり保育を実施します。

### 選択肢の確保

公私立、幼保を問わず、**幅広い選択肢**の中からそれぞれの家庭が事情や子どもにあった場を選択できるような環境づくりを進めます。

### 将来構想

計画実現に向けて、中・長期的な視点から段階的に取り組みます。将来構想としては5園とすることが考えられます。ただし、**第1段階**として、平成30年度までに、現在24園ある公立幼稚園は**11園に再編**します。

## 年次計画（平成30年度まで）

### 平成27年度

- 長島中学校ブロック
  - ・公立幼稚園4園→1園（現長島中部第二幼）
- 成徳中学校ブロック
  - ・公立幼稚園3園→2園（現大成幼・現深谷幼）
- 明正中学校ブロック
  - ・公立幼稚園3園→1園（現在良幼）

### 平成28年度

- 陵成中学校ブロック
  - ・公立幼稚園3園→1園（現藤が丘幼）
- 光陵中学校ブロック
  - ・公立幼稚園2園→1園（現大山田北幼）

### 平成29年度

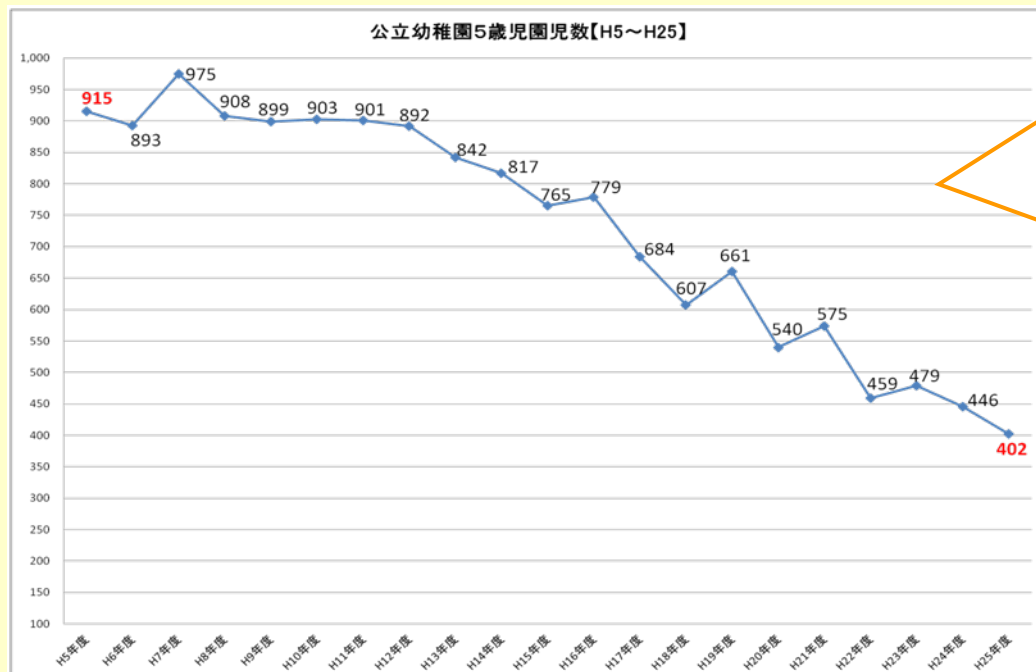
- 長島中学校ブロック
  - ・公立幼稚園1園→1園<認定こども園>
- 多度中学校ブロック
  - ・公立幼稚園1園→1園<認定こども園>
- 光風中学校ブロック
  - ・公立幼稚園2園→1園<認定こども園>

### 平成30年度

- 陽和中学校ブロック
  - ・公立幼稚園4園→1園<認定こども園>
- 正和中学校ブロック
  - ・公立幼稚園2園→2園（現七和幼・現久米幼）

- ※ 通園学区は、再編を行ったブロックの園から順次廃止し、小学校の通学区域に関係なく自由に園を選択可能。
- ※ 園児の送迎については、原則保護者による送迎。
- ※ 再編により、幼稚園名は改名。
- ※ 認定こども園については、ニーズ調査結果等により検討。
- ※ 深谷幼・七和幼・久米幼は、引き続き5歳児1年保育を実施。

## 子どもたちの社会性を育むためには、一定の集団規模（20～30人程度）が必要です



公立幼稚園の園児数の減少の背景としては、少子化や核家族化、保護者の就労状況の変化などが考えられます。中には園児数が10人を割り、休園となる園が出るなど、子どもたちの社会性を育むための集団の確保が喫緊の課題となっています。